

SAPPORO 教区 NEWS

第5号

2006年10月15日

発行：カトリック札幌司教区事務局広報部
〒060-0031 札幌市中央区北1条東6丁目10

Tel. 011-241-2785 / ホームページ：http://www.csd.or.jp

ミニ・バチカン展開催

― 神様の聖心を実践した方 ― ヨハネ・パウロ二世 ―

北一条教会献堂九〇周年・ヨハネ・パウロ二世采旦二五周年を記念して開催



十月七日(土)と八日(日)の両日に北一条教会で、名古屋教区の南山教会の協力で、北一条教会現聖堂献堂九十周年と、ヨハネ・パウロ二世前教皇来日二五周年を記念してミニ・バチカン展が開催された。



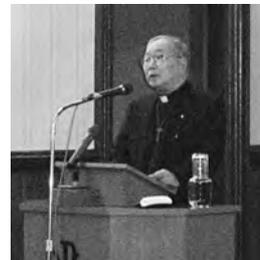
ミニ・バチカン展の様子(カテドラルホール)



北一条教会のカテドラルホールには、十字架の聖遺物や、教皇様の写真一〇〇点、祝福されたロザリオ〇点、ヨハネ・パウロ二世のサインカード五〇種類、直筆のお礼状、ローマでの一般謁見の時に手にされた日本語のスピーチ原稿二〇枚、書齋で実際に使用されていたペン等が展示されると同時に、記念番組のビデオが上映された。

八日(日)午前十時一五分から記念講話は、西山達也神父(コンベンツアル聖フランシスコ会、前教皇

に日本語教師として長年仕えられた)を招き、『西山神父のみたヨハネ・パウロ二世』と題して、在りし日の故ヨハネ・パウロ二世の逸話をお話し頂きました。



講演なさる西山神父

西山神父とハネ・パウロ二世との日本語教師と生徒(?)としての関りは、「一時間半以内に来るように」とのヨハネ・パウロ二世からの突然の伝令に、戸惑いながら伺うと、日本語を教皇様に教えると言う大役を仰せつかったのですが、「あなたでいいんです」という鶴の一声で決まってしまう、その後、十三年間毎週水曜日の昼食時間に日本語を教えることとなったわけです。と云うことは、教皇は、昼食の時間を割いて日本語を勉強なさったと言うことです。(毎日三〇分単位で謁見の予定が組まれていた中で日本語を勉強された)教皇は語学の天才(十九ヶ国語を話し、四十ヶ国語以

上を理解できた)だからこそ出来た業でしょう。挨拶程度で良いからと言ふことでお引き受けし、イントネーションを直すことから始めました。教皇は語学の天才ゆえに日本語のマスターが早く、日本語でミサを、日本語でスピーチをということになり、「さあ大変なことになった」というのがその時の第一印象でした。

そして、教皇は、二十五年前、敬愛するコルベ神父の足跡を辿るべく日本をご訪問なさり、日本語でのミサとスピーチを行いました。そして、西山神父は前教皇のお気持ちを表すその時のエピソードを一つお話しになりました。「長崎でのミサの日は、震災じりの寒い日だったので、教皇は、控え室に入ってくるなりお声をかけられた言葉は『お湯を用意しましたか?』でした。洗礼を授かる信徒への配慮の言葉だったのです。」

との証明であり、顔の前に手を翳して(TVの報道でも皆さんご覧になった姿)いるのは、その間から参列している人々をよく見て話す前準備として必要な姿だったのです。

「ヨハネ・パウロ二世のことを一言で表すと」とよく聞かれますが、西山神父から見て教皇は「おとな」だった。(「おとな」とは、『大人』であり、心理学上の人と成る『成人』であり、神が創られた完全な人『聖人』である。)

神は完全な状態で人を創ったが、我々がそれを壊しています。聖人とは、凄いいことをした人ではなく、神様の聖心を実践した人です。自分の所属する教会から何人の聖職者が出たかどうか、出ていないことは怖いことであり、恐ろしいことです。これは、信仰が根付いているかどうか判断するためにも必要なことです。召出しは、イエス様が選んだからで、イエス様に責任があります(少しは気が楽になります)。出合いの凄さ、神様の永遠性(神様と私たちはいつの世も一緒。私は聖母マリアと一緒にいる)を感じます。

故「場崎 柔農神父」
故「橋本 力神父」
追悼ミサが厳かにとり
行なわれる



＝ミサを捧げる地主司教様＝

九月十日（日）午後二時半からカテドラルにおいて地主敏夫司教の司式で、司祭、修道者、信徒二五〇人余りが参列し、両神父の在りし日を偲ぶと同時に、両師の業績を讃えて神様の御許での安息を祈った。説教の中で地主司教は、ご自身と同世代である両司祭の逝去にふれ、余りにも身近にすぎたため、ご自身と同化させ感慨も一入のようであった。

司祭の異動

メナード神父帰国

北海道での五十年以上の宣教司祭の旅を終えて



＝日本で最後のミサの後、メナード神父様を囲んで＝

ジョセフ・メナード神父（メリノール宣教会）が五十年以上の日本での宣教を終えられて、九月二十六日にアメリカへ帰国なさいました。

戦争中に富沢司教がローマのメリノールハウスに宿泊なさったことや、富沢司教様が京都教区出身だったこともあり、富沢司教が札幌教区長に任命された折、メリノール宣教会に北海道での宣教を要請され、戦後まもない一九五四（昭和十九）年に、メナード師は、ライアン師、ゴールマン師、ラッキー師、ツィシェット師の四師と共に同宣教会として始めて来道され、最初に室蘭教会に赴任なさいま

した。その時から今回帰国なさるまでの五十二年間を北海道中心に宣教なさいました。九月十八日にライヤ管区長と共に、地主司教様へ離日の報告に來られ、二十五日にはメリノール宣教会の司祭団と和やかな送別会を行いました。メナード神父様の北海道での宣教活動に感謝し、これからの健康をお祈りします。

【メナード師略歴】

- 一九一九年三月二十三日 生まれ
- 一九四八年六月十二日 司祭叙階
- 一九五四年八月 室蘭教会主任司祭
- 一九五八年九月 伊達教会主任司祭
- 一九六五年三月 新富町教会主任司祭
- 一九六九年四月 登別教会主任司祭
- 一九七九年一月 夕張教会主任司祭
- 一九八三年 一九九四年 アメリカと京都で司牧
- 一九九四年 表町教会主任司祭
- 一九九七年 二〇〇六年九月 伊達教会主任司祭
- 二〇〇六年九月二十六日 日本での宣教を終えられてアメリカへ帰国

カトリック札幌 働く人の家の十五周年祝つ

九月二十三日（土・秋分の日）月寒教会において「人が大切にされる社会に向かって」をテーマに働く人の家の十五周年を祝う会が開催されました。

解雇されて以来二十五年間、勤務していた会社の前で、企業の中での人権侵害、いじめの実態に関心を持とうとギターを片手に訴え続けている「田中哲郎氏のトーク&コンサート」が一時間半に亘って熱く行われた。その後、月寒教会中庭で楽しいパーティーが行われました。

祝う会には、地主敏夫司教様はじめ賛助会代表の田村忠義神父様、札幌JOC協力司祭の谷内武雄神父様とペラル神父様、月寒教会主任の上杉昌弘神父様、教区事務局長の場崎洋神父様方の司祭団と、一〇〇名余りの修道者・信徒や関係する一般の方々が参加し晴天のもと執り行われました。



午後二時から始まった式典に続き、記念講演として、人員削減によって勤務先を

午後二時から始まった式典に続き、記念講演として、人員削減によって勤務先を

二五六七

第四回アジアニュースデイ(A.Y.D.) in 香港に参加して

A.Y.D.二〇〇六に参加した秋野 波留夫君の報告から抜粋にて紹介します。多くの青年たちと接して、大いなる感動を得たようです。



参加した人々と

今回は「家族」をテーマに、アジア二十五カ国、欧州、アフリカから約八〇〇人の青年が香港に集いました。開会式の時から国の枠を取り払って、積極的にコミュニケーションを取ろうと心が動いた人が多く、異なる文化、言語は障壁とならず「信仰の家族」としての交わりと愛を深めることができました。A.Y.D.の間中は、たくさんの方の歌や踊り、祈り、活動、食事などを通じて、本当に素晴らしい思い出と友情を共有できたこと、その貴重な恵みを自分の国に帰ってから広

カトリック高校生会 主催の夏キャンプ に参加して

岡澤まどか

「いつも喜んでいなさい。絶えず祈りなさい。すべてのことに感謝しなさい。」という祈りを本当に実感し、自分が自分でいられる安心感と、相手をもっと好きになりたいという素直な心になったことは、本当に嬉しいことで、言葉で表現できないような感動で胸が一杯になりました。私たちが、自分たちに植えられた種を芽吹かせることができるように、毎日の生活で出会う全ての人々と共に、幸せに生きるために何を求めていけば良いのかを考え、分かち合っていく意識をいつも忘れずにいたいのです。そして、次回のAYDで、もっと多くの人が招かれて、神様からのメッセージを聴くことができるように祈っていきたいと思います。最後に、私たちを支えて下さっている家族、友人、神父様に感謝致します。これからも、困難や苦しみにあつた時に、お互いを励ましあい、助け合っていくことができますように・・・。



担当司祭と参加者

自然の中、湖のそばでレクをしたりすいかわりをしたり、執行部が用意した道具でバレーや野球をしたりしました。そのあとはキャ

八月一日～三日までカトリック高校生会主催の夏キャンプにリーダーとして参加しました。場所は支笏湖のポロピナイキャンプ場でした。私は去年、執行部の会長をしていて、何か力になれないかと思ひ、春からカトリック高校生会執行部を手伝ってきました。毎年参加人数が減りつつあるこの夏キャンプ。今年も人数は少なかつたですが、少ないなりにまとまりがあつたと感じました。

各地区の活動報告

釧路地区

地区信徒大会開催

八月二十七日、地区宣司評の主催で釧路教会を会場に、信徒大会が開催された。よく晴れた夏空のもと地区の九教会から百五十二名の信徒が参加しました。



毎年八月最終日曜日が恒例の大会ですが、今年はそのとおり当該地区在勤の四人の司祭の祝賀の年に当たることから、まず、それを記念して感謝のミサが捧げられた。

司祭叙階五〇周年

マウリリオ・ラザロ師
(柏林台教会)
カリシモ・ロンデロ師
(釧路地区長・新川教会)

修道誓願五〇周年

ルカ・ボナヴィゴ師
(釧路教会)

ナルチゾ・カヴァツォラ師

(中標津教会)



講演会で耳を傾ける皆さん

区信徒徒職委員会は一九六九(昭和四十四)年十一月に組織され、以来三十七年間、時代の求めに応え、地域のなくてはならない存在として、地道に組織を維持してこられたことは、ひとえに司祭側の心をひとつにした強い指導が大きな要であつたと感謝する次第です。(マウリリオ師は休暇でイタリアへ帰国のため三名の記念ミサとなつた)

根室幼稚園増築完了 園内に聖堂を設置



幼稚園に併設された聖堂

根室カトリック幼稚園(阿部次郎園長)は一九六二年設立以来市民の強い支持を受けて成長。

とくに平成八年の全面改築以来は、幼児の減少傾向にもかかわらず定員を上回

同園の完成後の主な施設は保育室六（うち預かり保育室一）・調理室（食育室）・和室（礼法室）・会議室・図書室各一のほか聖堂（九四平米）・管理人室が加わり、施設面で幼児教育の新しい方向を目指すとともに、明るく清らかな祈りの場を内にもつカトリックの幼稚園によりふさわしいものとなりました。



根室教会聖堂（幼稚園内）

る空き待ちの状況が続いており、保護者から施設の拡張が切望されていた。このため昨年春から、内部に聖堂を設けることを前提に園舎増築の検討をすすめ、地主司教様から教会用地借用の承認をいただくことができ、今春四月に着工、八月二〇日無事完了。

かに行われた。遠方よりかけつけてくださった方も多く一八〇人の参列看はパウロ神父さまに



記念のミサをするパウロ神父

八月二十七日快晴 当地自慢のオホーツク・ブルーの空の下パウロ神父さまの叙階五十周年記念ミサがゆかりの神父さまもお越しくださいり五人の司式でござ

■ 北見地区 ■ 金祝、パウロ神父さま

これからは、園児及び保護者の要望に応え幼児教育に寄与できるとともに、地域の信徒方にとっては老朽化した教会の今後の維持の問題が解消され、安心して信仰に勤しむことができ、おおいに喜ばれることとなる。

した。パウロ神父さまは時々帰国されるのですが、私達は



お祝いの花束を受けられるパウロ神父

感謝の思いを胸にミサに臨んだ。遠いオランダより日本の最果ての北見地区5教会を長きにわたり司牧宣教されたことに本当に感謝申し上げます。一部のミサが終わり二部はスライドにパウロ神父様の幼い時から今に至るまでの写真を映し、楽しく解説していただき、その後みんなで記念写真におさまり、三部は隣接の藤幼稚園にて祝賀会が行われ、懐かしい方々の再会を喜び共に祝った。記念品はアイヌ紋様入りのストラ、それと記念文集は沢山の方々から寄せられた寄稿文をそのままファイルしてパウロ神父さましか目にする事の出来ない世界で一冊の文集が贈られま

■ 旭川地区 ■ 東京四教会との青少年交流について

「もう帰って来られないのでは」と思うことがあります。先日この事をパウロ神父さまにお話ししましたところ、にこにこしながら「帰ってきますよ。」と元氣な返事が返ってきました。これからお元氣で北見地区のお父様でいてください。（森谷）

間野 正孝 神父
東京教区の小教区・三教会（板橋、三軒茶屋、瀬田）と新潟教区の小教区・高田教会の中・高生、青年三十一名が八月十九日（土）二十日（日）旭川地区の青少年との交流を目的として旭川・神居修道院に來られました。旭川地区からも青少年十六名が土曜日の午後から参加し楽しい集いや交流が行われました。この企画はフランスシコ会が持っている東京の小教区の青少年を対象に召命を少しずつ考えてもらいたいという考えのもと、都会を離れ大自然に満ち溢れている北海道に出かけ仲間作り



と信仰を見つめ直し、旭川地区の青少年と交流を深めるものでした。

◆十九日（土曜日）
午後二時 修道院中庭にて仲間作りとしてグループによるゲーム
午後四時 そのゲームを元に旭川5条教会にて感謝の祭儀
午後五時半 修道院中庭にてジンギスカン・パーティー
午後七時半 グループ分けによるロールプレイ（いじめ）
午後九時 近くの温泉へ入浴
帰院後フリータイム
というタイムテーブルで交流を深めました。特に「いじめ」を主題にしたロールプレイではグループ分けを行い、その中から一人いじめられる人を選び、その人に皆が真剣にいじめの言葉や行動を浴び

せ、いじめられる側といじめられる側の心理的面を全体の報告の中で分かち合い、「いじめ」がいかに人格を否定し傷つけているかを実感した体験でした。
◆二十日（日曜日）
午前十時半 旭川地区カトリック大会に参加
東京から來られた青少年の方々に皆に紹介講演と感謝の祭儀を通して交流を深める
一泊二日という短い時間でしたが、旭川地区の中・高生、青年達は関東の青少年達との出会いと交流を通して信仰の輪が北海道を飛び越えて関東まで繋がったことと思います。
今回の企画はフランスシコ会として初めての試みであり、関東の青少年を対象にした召命旅行であった為、色々な点で不備が生じましたが、今後はその反省を踏まえ、広範囲における青少年の召命を考えた企画にしていきたいと思っております。
因みに関東の四教会の青少年達は翌日利尻島に向かい二十四日帰京いたしました。

■ 苫小牧地区 ■

いかがでしたかー！ 高齢者宣教巡回を迎えて

八月二十五日（金）、ぼつぼつと信徒が教会に集まって、「もー十一時だねー、まだ来ないねー」とそわそわ。「えっ、百二十人もいらつしやるのー、お聖堂の椅子どかしちゃおうか、お座布団ならべよーかー」。「お年寄りだから、椅子のほうがいいんじゃないー」。教会の生き字引の、大長老婦人もスタンバイ、「誰さんも誰さんも、いらつしやるはずよ」と、どつしり。十二時ちかく、バス三台で到着。三時間ものドライブにもかかわらず、皆様お元気そうに笑顔で教会へ。小さいながらも、緑に囲まれた敷地で、暖かい団欒の立ち話。オニール主任司祭や、大長老婦人は、歓迎の笑顔を振りまいてオシャベリ。その間に、少しずつ聖堂訪問やベビーホームの見学をしていただく。静内川をはさんだ、真歌（マウタ）の丘にある、アイヌ民族資料館・シヤクシヤイン記念館に、昼食・公演会場を準備。皆様を美しい丘

に送り届けて、教会のメンバーは解散。皆様いかがでしたかー。どうぞ、お元気に。（静内教会有志）

室蘭ブロックの合同 夏期学校が開催される

室蘭ブロックの夏期学校が道立洞爺少年自然の家をベースに八月五日（土）から七日（月）にかけて開催されました。野外ミサ、洞爺湖での水遊びなどが行われ、二十名以上の子供たちが参加し楽しい有意義な時間を過ごすことができました。



元気に水遊び



野外ミサ

■ 札幌地区 ■

札幌使徒職大会開催

十月一日（日）藤学園講堂において二〇〇六年使徒職大会が「宣教共同体」をテーマに午前九時五十分から開催されました。



＝動き豊かな講演風景＝

開会式の後、『新しいぶどう酒、新しい革袋』と題して、円山教会主任司祭 エミール・デュマス神父（メリノール宣教会）が講演をされた。デュマス神父は、福音が一番大切であるが、大切なのは聖書と言う印刷物ではなく、私たち信徒が福音を宣べ伝えることであり、その喜び、希望を述べ伝えることが大切であることをを全身を使って熱く語られた。

我々の共同体は「福音+

宣教+共同体」であり、いずれの福音書も我々に集まるとは述べておらず、「行つて福音を宣べ伝えなさい」と言っていること。また、福音が語っている『新しいぶどう酒、新しい革袋』とは、平々凡々と何もせずイエスに任せるのではなく、イエスと共に行動し、自分の所属する小教区を新しくし、周りの教会を新しくすることが大いに大切である意味であること。祈りはお互い（共同体）のために祈ることが大切であることを語られた。また、札幌教区の歴史に触れられ、札幌教区は凡そ一五〇年の歴史であり、まだ始まったばかりで、今は完成に向かって歩んでいる途中であり、教区民は教区の歴史を顧み、それを少しずつ勉強すること

も、何が必要かを見つけ出す手段であることを語られた。AAのステップも最初は二人から始まり現在に至っているのだから、イエスも二人・三人と私のために集まれば私は感謝すると言っているように、人数に囚われずに内容を見るとき、失敗も聖霊の導きであり、少しずつゆっくりと共同体が一緒に先に進むこと

が大切であることを語られた。

最後に、京都教区の大塚喜直司教様の「現実に合わせて、祈り、学び、行動を通して平和について考えを深めるよう呼びかけています。」

札幌地区ではここ数年、七月七日（一九三七年日中戦争の始まり）から八月十五日までを、平和を祈る四十日間として案内してきました。今年テーマは「平和のために働く人は幸い」。「戦争碑ウォッチングツアー in 小樽」を七月十七日に開催し二二名が参加。かつて軍港でもあった小樽にも戦争関連の碑が残されています。戦争を賛美するもの、戦死者を英霊として祀ったもの、平和への誓いを象徴するものなどです。富岡教会でのオリエンテーションの後、新海神父の案内で、わだつみの塔（小樽商科大構内）、小林多喜二文学碑（旭展望台）、長紀聖徒の碑および顕誠塔（小樽公園）、尼港事件殉難追悼記念碑（手宮公園）など八箇所を巡り、平和の尊さについて共に考える機会を持ちました。主催は正義と平和委員会。



ミサを捧げる司祭団

平和を祈る四十日間

講演の終了後、地主司教様の司式で札幌地区の司祭団が集い、感謝のミサを捧げ大会を終了しました。

平和講演会「新谷のり子さんとともに・平和を歌い・語り継ぐ」を、七月二十九日(土)午後三時から五時にかけて北一条教会で行い五〇名が参加。

「フランシーヌの場合」でデビューした新谷のり子さん。インドのマザーテレサハウスでのボランティア、「人権学習」の講師として出会った子ども達との交わり、シリア難民キャンプでのこと、九・一一以後のことなど、自らの体験をもとに戦争の悲惨さや平和への思いを熱く語ってくれました。曲は「ペイルート一九八二年」「鳥になれたらいいね」「約束」など九曲。新谷さんに力づけられながら全員「第九で第九を歌おう」で平和への思いを新たにしました。



平和の祈りが込められた折鶴

平和祈願ミサは、八月十五日(火)午後六時から七

時に、北一条教会で二三〇名程が参加し、地主敏夫司教の司式で実施。

地主司教は説教の中で、「人間の心から、憎しみ、妬み、恨み、そして報復の気持ちを取り除かねばなりません。許し、寛大、柔和の心がなければ平和は実現しないと思います。口先だけの祈り、待ち、願うだけでは平和はきません。平和を実現する人、行う人、創る人が、神の子と言われるのです。」と呼びかけられました。

各小教区(北見教会からも)や、教会学校、修道院から奉納された平和の折鶴は、全国ハンセン病療養所慰霊堂のうち北海道関係八箇所にも、またミサ献金九九、一〇〇円は「日本パレスチナ医療協会緊急支援」に贈られました。

ミサ後の平和行進には、一五〇名が参加。大通公園三丁目まで、ペンライト、プラカードを持ち、聖歌やシユプレヒコールで街ゆく人に平和を訴えました。大通公園ではプロテストの皆さんの拍手に迎えられて、祈りの交流を行い、握手を交わし午後八時三十分解散。今年は、

ファミリーでの参加も多く嬉しいことでした。ご協力頂いた皆さんや、祈り、折鶴で参加された全ての方々感謝いたします。(平和句問実行委員会)

函館地区

合同夏季学校で「一回り遅しく

宮前町教会

東館 麻知子

七月二十八日から三十日まで二泊三日の日程で行われました函館地区合同夏季学校も好天に恵まれ、湯川教会、当別教会、宮前町教会の計二十四名の子どもたちが、短い期間ではありましたが、湯川教会をお借りして神様の家族として共に生きる事を体験し、たくさんのお恵みの中で事故もなく無事終了いたしました。青年会の『肝試し』には、キャーキャーと大騒ぎ、リーダーたちの『だるまさんがころんだ』『石蹴り』は、始めて挑戦する子どもも多く、汗びっしょりになって熱申していました。オール神父様のスクリーンを使用してのみ言葉の分か

ち合い。今田神父様の星や月のお話や、それらを創造された神様の栄光についてなど、こどもたちは砂が水を吸い取るように自分の中に取り入れていました。その夜、外に出て子どもたちの目に映った月や星はきつと今までとは違っていたことと思います。リーダーのお母様方が作ってくださるお食事はどれもおいしく、皆で食べるとそのおいしさも倍増し、普段あまり好きではないと思っていたものも食べられるようになりました。いつもお家の方と行くスパビーチャ温泉も、お友達と一緒にいづもとは違った楽しさがあったようです。リーダーたちが熱演した紙芝居と寸劇『ダビデとゴリアテ』は拍手喝采で大喜びしてくれました。子どもたちが寝静まってからこっそり練習した甲斐がありました。初対面では緊張して無口だった子どもたちも、あつという間に仲良しになって、始めは自己主張の強かった子どもも皆と仲良しになりました。自分の要求の主張ばかりではなく、自分と他の人との調和を学んで仲良く

なっていました。最終日には、お友達が何人できたかをリーダーに自慢しあう微笑ましい姿が見られました。そんな小さな出来事にも、中心におられる神様の存在を気付かないうちを感じ取っていることでしょうか。一生懸命に生き、常に何かを吸収しようとする、真直ぐひたむきに光の道をあゆんでいる子どもたちの姿にはいつも教えられることがたくさんあります。今回のテーマは『祈り・こんな時イエス様ならどうする?』でしたが、このテーマは子どもたちより私自身に向けられています。無意味に月日だけを重ねることなく、まっすぐに歩むことをいつも忘れないようにして、これからもリーダーとして神様の望まれることを聴く耳を大切に、子どもたちと共に祈り、共に育っていききたいと思っています。

札幌結婚講座のご案内

札幌地区ではカトリック教会で結婚式を挙げたい二人のために合同で結婚講座を開講しています。お気軽にご連絡下さい。

◆対象者
カトリック教会で結婚式を挙げたいとお考えのカップル

◆申込方法
所属教会の主任司祭の許可を得て、直接、担当司祭にお申込下さい。

◆連絡・申込先
電話(六三二) 四二二五
カトリック円山教会の
エミール神父迄

◆開催場所
カトリック円山教会
札幌市中央区北四条西二十三丁目二一〇
電話(六三二) 四二二五
Fax(六三二) 四二四九

◆日程
相談の上、調整し実施します。教会掲示のポスターをご覧ください

結婚講座のご案内

札幌地区ではカトリック教会で結婚式を挙げたい二人のために合同で結婚講座を開講しています。お気軽にご連絡下さい。

〒060-0811 札幌市中央区北四条西23丁目210
カトリック円山教会
エミール神父 電話 011-631-4215
FAX 011-631-4249

札幌地区

「要理担当者養成講座」プレ講座

◆主催

札幌地区宣司評

◆主管

要理担当者養成委員会

◆日時

二〇〇六年十一月三日
(金・祭日)

◆場所

カトリック北二十六条教会
札幌市東区北二十六条東
一丁目
TEL 〇一一七七一
一九七五八

◆目的

各小教区における求道者に対する要理指導は、主に司祭が行っているが、人数や時間等を考慮すると限界に近いと聞きます。そこで、二・三人の信徒がグループで求道者とともに歩みつつ、それぞれの人の中にあるものを分かち合いながら進める要理担当者の養成は急務と考え、「要理担当者養成講座」を開講します。

このプレ講座は、来年

◆参加料は無料

◆持ち物

昼食、聖書、筆記用具

◆申込み期限

二〇〇六年

十月十七日(火)

◆申込み方法

度に開講予定の「要理担当者養成講座」の雰囲気や体験を提供し、要理担当者への動機づけとして開講するものです。

◆テーマ

「信仰とは何か」
「伝えることとは」

◆講師

藤女子大学助教授
Sr.木村 晶子(哲学専攻)
(殉教者聖ゲオルギオ
のフランシスコ修道
会花川マリア院)

◆日程

九時三十分 受付
九時五十分 開会
十時 講義開始
十二時 昼食
十三時 講義再開
十五時三十分 まとめ
十六時 閉会式

◆参加対象

司祭、修道者、各小教区の要理担当者または候補者、望まれる人(主任司祭推薦)、養成委員会メンバー(各小教区の信徒の参加者は五名以内)

社会福祉シンポジウム

◆日時 二〇〇六年十一月十八日(土)

午後二時

午後四時三十分

(受付開始 午後一時三十分)

◆場所 カトリック北一条教会 聖堂

札幌市中央区北一条東六丁目十

◆テーマ 「精神障がいと共に生きる」

(べてるの家から学ぶ)

◆講師 向谷地 生良氏

(べてるの家ソーシャルワーカー)

◆入場無料

e-mail sawada@merryed.jp

教区・各地区行事

▼教区

10月15日(日) 故澤田茂師納骨式(白石本通墓地)

30日(月) 31日(火) 教区司祭月例会(花川マリア院)

11月23日(木) 荒木閑孝師・池島函羽師金祝賀会(北一条教会)

27日(月) 28日(火) 教区司祭月例会(花川マリア院)

▼札幌地区

10月1日(日) 使徒職大会(藤学園)

4日(水) 地区宣司評事務局会議(ベネディクトハウス)

15日(日) 市内合同墓参(円山・里塚・白石墓地)

11月1日(水) 地区宣司評事務局会議(ベネディクトハウス)

3日(金) 要理担当者養成プレ講習会(北26条教会)

12月6日(水) 地区宣司評事務局会議(ベネディクトハウス)

▼函館地区

10月14日(土) 15日(日) 地区合同黙想会(宮前町教会)

11月25日(土) 八雲教会献堂式(八雲教会)

26日(日) 湯川教会献堂50周年記念ミサ・祝賀会(湯川教会)

12月11日(月) 13日(水) 共同回心式(宮前町・湯川・元町)

22日(金) 地区合同クリスマス集い(宮前町教会)

▼旭川地区

10月22日(日) 旭川市内合同初聖体式(旭川5条教会)

27日(水) 旭川宗教者懇話会

29日(日) 旭川地区合同ミサ(旭川5条教会)

11月8日(水) 9日(木) 旭川地区司祭会議(カトリックセンター)

28日(日) 旭川市内合同ミサ(旭川5条教会)

12月6日(水) 7日(木) 旭川地区司祭会議(カトリックセンター)

24日(日) 旭川市内合同クリスマス(旭川5条・大町)

25日(月) 旭川市内合同クリスマス(旭川5条教会)

31日(日) 旭川市内合同ミサ(旭川5条教会)

▼苫小牧地区

10月3日(火) シーフエアラーズ臨時運営委員会(シーフエアラーズセンター)

22日(日) 50周年献堂ミサ・堅信式(東室蘭教会)

29日(日) 室蘭ブロック会議(東室蘭教会)

11月9日(木) シーフエアラーズ運営委員会(シーフエアラーズセンター)

12日(日) 苫小牧キリスト教船員奉仕会

19日(日) 20周年記念祝賀会(グランドホテルニュー王子)

10月1日(日) 苫小牧地区連絡協議会(新富町聖堂)

10月1日(日) 地区宣司評事務局会議(美幌教会)

カトリック通信講座



◆主催・問合せ先

オリエンズ宗教研究所
カトリック通信講座センター
〒一五六〇〇〇四三
世田谷区松原二丁目二
十八番五号
電話 〇三―三三三二二
―七六〇一

Fax 〇三―三三三二二
―五三三二二

http://orients.or.jp

◆講座（全六講座）

○キリスト教とは（全一五講）
四、五〇〇円（教材費、
税込）

キリスト教と初めて出会
う方のために
講座の内容：最初の呼び
かけ／日々に新たに／
いのちのパン など

○聖書入門「I」（全一五講）
四、五〇〇円

（教材費、税込）
福音書に親しみたい方の
ために

講座の内容：新約聖書を
開いて／神の国／キリス

トと共に生きる など
○キリスト教入門（全一五講）
四、五〇〇円

（教材費、税込）

キリスト教の基礎知識を
学びたい方のために
講座の内容：神を求めて
／秘跡について／現代に
生きるキリスト者 など

○神・発見の手引（全一五講）
四、五〇〇円

（教材費、税込）

神の存在を知りたい方の
ために
講座の内容：呼びかける
神／人生とは／見えない
ものと見えるもの など

○聖書入門「II」（全一七講）
五、〇〇〇円

（教材費、税込）

初代教会について知りた
い方のために
講座の内容：使途の働き
／ローマ人への手紙／ヨ
ハネの黙示録 など

○幸せな結婚（全二〇講）
五、〇〇〇円

（教材費、税込）

結婚準備に、すでに結婚
生活をされている方に
講座の内容：愛と結婚／
新しい旅立ち／人間の成
長を目指す結婚 など

講座をお申込になりたい
方は、オリエンズ宗教研究
所までお問合せ下さるか、
上記ホームページをご覧下
さい。

教区風の

皆様に感謝！

『祈り 平和を創り出すた
めに』の公演を終えて

この公演は、四十年程前
に発行された絵本・「スー
ホの白い馬」の朗読と馬頭
琴の演奏をする人たちが札
幌にいたるから聞いてみた
い、更に、聞きたい人たちが
他にもいるかもしれない
——という思いから始まり
ました。「スーホの白い馬」
は大好きだった白い馬を偲
ぶという物語です。
“人の想いは尊くて、祈
ることの確かさを伝えたい
”と考え目的としました。
プログラムの内容は——
ボーイスカウトの創始者
が、こどもたちに残した最
後の手紙「幸せになる方法
は人を幸せにすること」
宮沢賢治作『銀河鉄道の
夜』の「さそりの火」が願
う、神さまへのお祈り。
“トアメイジング・グレイ
ス”（神さまを賛美する歌
詞だから）
“トビリーヴ”（こどもに
希望を与える歌詞だから）
これらを、朗読と歌と演
奏（馬頭琴・オルガン）で



構成しました。こどもから
大人の方々に喜ばれるも
の、特に、教会が時代を担
うこどもたちでいっばいに
なるなら素晴らしいと思っ
ていました。

場所は「カトリック北一
条教会」を希望しました。
久保寺神父様の許可と、宣
教・養成部の話し合いを経
て実現となり、この企画に
賛同する人たちが（カトリッ
ク信者九人・信者でない人
四人）で実行委員会が組織
されました。

この実行委員会の会議の
中で、カトリック信者の人
たちにとって「目から鱗」
のような話がありまし
た。それは、信者の皆さん
には前売り券の売れ行きが
いいのに対して、信者でな
い実行委員の人たちには、
「祈り」、場所が「カトリ
ック北一条教会」と書いて
あることで、お知らせした

相手が引いてしまうという
ことでした。信者の私たち
には「そうなの？」と驚き
です。祈りは特別な人がす
る、特別なものではないこ
と。先ず、教会を知っても
らいましょう。——と話し
合い、司会進行には、始め
から関っていて熱意がある
からとの理由で、信者でな
い実行委員の女性がするこ
とになりました。

当日は、小学生以下五〇
名・中学生以上二五〇名の
入場者数でした。混むこと
が予測されたので、朝ミサ
後に信者さんと一緒に、跪
き台を移動しました。公演
は、参加された方・お手伝
いされた方・実行委員が
「よかったよ」「できたの
ね」と、様々に感動の共有
ができました。私は翌日、
参加された方から「この公
演の意図がよく分かりまし
た。感動を伝えたくて……」
とお電話があり、更に感謝
です。

この公演を終えて、実行
委員会で確認したことがあ
ります。それは、教会の使
命は、こどもと信者でない
方たちに「キリストを知ら
せること」ということで
す。誰でも神さまに、私を

見ていてほしい、見つけ
てほしいと願っていると
思います。公演をご覧に
なった方々が、淋しい時
“神さまは私を忘れない
”と感じてもらえたとし
たら私たちの幸せです。
（大関裕美子）

編集後記

平和句間の祈りの一つと
して、所属する小教区の皆
さんと一緒に折鶴を折りま
した。その人の状態に応じ
て、一羽折る人もいれば、
百羽折る人もいました。し
かし、平和を願うその人の
祈りの大きさは皆さん一緒
でした。

イラクへの自衛隊派遣等
で改めて平和を考えさせら
れた平和句間でした。無事
帰還したとは言っても、現
地でのトラウマで、帰国し
てから問題が発生する場合
も少なくないと聞いていま
す。戦争で負傷や死亡する
ことも当然大変なことでは
ありますが、現代では戻ってからの
心の病気がかかってしま
うことが深刻なような気がし
ます。このような事が起こ
らないよう日々祈り、行動
したいものです。（編集子）